



巻頭言	・・・ 1
2013 年度活動報告	・・・ 2
2014 年度活動計画	・・・ 4
調査活動報告	・・・ 5
ロシアにおける繁殖状況調査	・・・ 6
第三回国際ネイチャー・スクール (INS)	・・・ 6
タンチョウが飛行場に営巣	・・・ 7
活動記録	・・・ 8
ソデグロヅル現る！	・・・ 8

越冬場所は分散傾向

理事長 百瀬邦和

今シーズンの総数調査の結果は 1,450 羽となりましたが、冬の総数調査で確認できなかった足環付きのツルが春以降に何羽も見つかっていますし、当然足環のないツルの中にもこのような例があるはずですから、実際の総数はもう少し多いのでしょう。昨シーズンの結果は 1,437 羽、一昨年は 1,463 羽でしたから、この 3 シーズンはほぼ数の変動なしということになるのでしょうか。

そこで興味深いのは、阿寒と鶴居にある、いわゆる三大給餌場では数の大きな変動がないか、やや減少しているのに、その他の場所の割合が増えてきていることです。20 年前には 90% 程が三大給餌場に集まっていたましたが、10 年前には 80%、そして今シーズンの記録は 50% 程になっています。今のところ道東地域の範囲内での分散が進んでいるということですが、早くもっと広い範囲に分散して行ってほしいものです。嬉しいことに、今年 5 月に札幌に近い長沼町に「舞鶴湧水地にタンチョウを呼び戻す会」が結成されたというニュースが入ってきました。タンチョウの分散にあたっては、なによりも地元の理解が欠かせません。できることならタンチョウにもこのニュースを届けたいものです。

2013 年度活動報告

★調査研究活動

＜タンチョウ繁殖状況調査＞

飛行調査を4月22日から5月11日に実施しました。天候不順の影響などで、調査開始から終了までに要した日数は20日、実際に調査を行ったのは12日間の16フライトでした。飛行調査の後、地上調査などを続けた結果、2013年の道内の繁殖確認つがい数は過去最多の413となりました。

＜タンチョウ標識調査＞

2013年度は6月29日から7月27日の間に実施しました。調査のべ日数は13日間、最終の標識個体数は18羽でした。調査には52名、のべ162人の方がボランティアで協力して下さいました。

＜タンチョウ総数調査＞

2013年度は2014年1月31日から2月9日までの間の9日間で調査を行い、調査には49名、のべ156人がボランティアで参加して下さいました。今シーズンの総数は1,450羽、このうち幼鳥は160羽です。なお昨年までは一羽単位の羽数を出していましたが、今回からは50羽単位程度にまとめたタンチョウ保護研究グループとしての概算数として発表することにしました（本紙21号参照）。

＜タンチョウ生息地分散＞

12月に受託した環境省の保護増殖事業で、事業名は「生息地分散にかかる生息適地等調査業務」です。業務の内容は(1)専門家へのヒアリング、(2)分散適地等調査、(3)分散手法等調査、(4)給餌に依存しない地域個体群創出のための情報把握、の4つの業務でした（本紙21号参照）。

＜タンチョウ生息地分散（グリーンワーカー事業）＞

2014年1月に受託した環境省のグリーンワーカー事業で、事業名は「釧路湿原国立公園及びその周辺地域におけるタンチョウ生息利用環境確認業務」です。前年度にGPSロガーを装着したタンチョウの冬期の位置情報を基に、全ての地点で現地調査し、環境の記載と写真情報を記録しました。

＜シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全事業＞

2012年度から環境研究総合推進費で実施している事業で、3年継続事業の2年目に当たります。5月16～25日にロシアに渡航し、2012年度と同様にハンカ湖周辺の湿原をヘリコプターで飛行し、タンチョウの繁殖（生息）状況を調査しました。調査の実施が当初予定していた調査時期よりも遅れたため、巣に座っているタンチョウはあまり見られず、孵化後数日から一週間程度のヒナを連れたつがいが多く確認されました（本紙19号参照）。

シマフクロウについては竹中健氏が担当して事業を行っており、2013年度はCCDカメラによる巣内の撮影と成鳥を捕獲してGPSロガーを装着して行動を分析する作業を中心に行ないました。

＜大陸と北海道とのタンチョウの遺伝子解析＞

当法人理事の酪農学園大学の寺岡宏樹教授が、タンチョウの遺伝子解析研究を始めています。当法人が韓国のリー キサップ（Ki-sup Lee）博士の協力をいただいてサンプルの収集を行いました。サンプルの収集には2～3シーズンかける予定です。

★保護・保全活動

＜タンチョウの事故防止対策＞

2013年6月12日にワークショップ「事故死するタンチョウを減らすために－タンチョウの電線・車・列車衝突事故防止への取り組み－」を行ないました。環境省釧路自然環境事務所を始め、国土交通省北海道開発局釧路開発建設部、北海道釧路総合振興局、JR北海道釧路駅、道東地区バス協会などから、また市民数名の参加もありました。ワークショップでは、NPO法人どうぶつたちの病院沖繩の理事長である長嶺隆氏、厚岸水鳥観察館の澁谷辰生氏、釧路市動物園の飯間裕子氏、当法人の正富宏之理事に講演していただき、環境省からタンチョウの事故収容状況とその対策についての報告をいただいた後に、事故を減らすためにはどんな対策が実行可能であるのか話し合いました（本紙19号参照）。

ワークショップの議論を受け、環境省にある事故記録ファイルの提供を受けて事例の分析を行ないました。また同時に野生生物の交通事故死関連の文献資料収集を行ないました。

＜タンチョウその他ツル類に関する講演・講習会＞

○ 当会主催による2つの講演会を行いました。

- ・ 6月12日に行われたワークショップに参加して下さった長嶺隆氏に「ヤンバルクイナの保護の現状について」と題した講演を釧路市生涯学習センター(まなぼと)でいただきました(本紙19号参照)。

- ・ 釧路市立博物館において8月7日に講演会を開き、国際ネイチャースクールの創始者であるスーリンイン(Liying Su)博士と、国際自然保護連合・ウェットランドインターナショナル(IUCN/WI)の種の保存委員会(SSC)ツル専門家グループ(CSG)代表のジム・ハリス(Jim Harris)博士に以下の演題で講演していただきました(本紙20号参照)。

スー博士：「中国でおこなわれているツル保護に向けた国際プロジェクト ～国際ネイチャースクール～」

ハリス博士：「CSGの仕組みと今後の活動方針について」

- 環境省北海道地方環境事務所と(公財)北海道環境財団の主催によるシンポジウム「十勝発。ツルと人との新しい関係。」に協力し、当法人からは百瀬邦和理事長と正富欣之副理事長が講演、正富宏之理事がパネルディスカッションに参加しました(本紙21号参照)。

＜提言等＞

北海道開発局池田河川事務所の実施する十勝川築堤ほかの工事に際して、タンチョウの生息に配慮すべき注意事項について助言しました。これは前年と同様で、飛行調査による営巣地点の確認調査の結果に基づいて行いました。

根室市フレシマ地区の発電用風車建設に際してのアセスメント調査の方法等について提言しています。これも上記十勝川の場合と同様に、飛行調査による営巣地点の確認調査の結果等に基づいて行いま

した。

根室振興局の農村整備事業についてタンチョウの繁殖に悪影響を与えないためのヒアリングに対応しました。

＜会報の発行・ホームページ制作等＞

会報は前年までと同様に発行しました。

ホームページの更新は、今年度から庶務が担当し、新しく英文ページを開設するためにプラム理事が翻訳を始めました。

＜出版物発行等＞

小冊子「湿地の神Ⅲ」を5,000部印刷し、釧路市内の小中学校を始め、各国の関係者などに配布しました(本紙21号参照)。

(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリと釧路市阿寒国際ツルセンターに設置している標識個体の情報展示手段としての「標識鳥ファイル」を11月16日に更新しました(本紙20号参照)。

＜傷病個体の保護収容への協力等＞

2013年10月9日に環境省釧路自然環境事務所からの応援要請を受け、浜中町でスラリーに落下した成鳥の保護収容に協力しました。2013年10月28日には環境省北海道地方環境事務所からの応援要請を受け、豊頃町農野牛の畑で発見された翼を骨折したヒナの保護収容に出動しました。2014年2月25日に同様に、豊頃町幌岡で翼をいためて牛舎に出入りしていた幼鳥1羽の保護収容に協力しました。

＜中標津俵橋湿原プロジェクト＞

2014年6月9日に俵橋湿原内の町有地にデントコーンの種を蒔きました。しかし、蒔いた種が昨年以上にカラスに食べられてしまったようで発芽はほとんど無く、今年も会員の榊原源士氏にデントコーンを提供していただいて10月24日に冬季給餌台(ニオ型)を設置しました。ニオの中部には中標津農業試験場から提供を受けたデントコーンを供給しました(本紙20号参照)。俵橋湿原ゆめプロジェクトのメンバーである大河原彰氏の観察では、今期のニオの利用は頻繁ではなかったようで、2月初旬

の総数調査時にはニオを訪れている形跡は見られませんでした。

また、大河原彰氏が中心となってカスミ網を使った小鳥類の標識調査が行われました。

<キナシベツ湿原プロジェクト>

昨年に続いて会員の真野徹氏が中心となり、カスミ網を使った小鳥類の標識調査と目視による定点調査を2013年10月3日から20日まで行いました。

★国際協力活動

<国際タンチョウネットワーク (IRCN) と協力 (中国のタンチョウ生息地とその周辺国境地帯における普及啓発のための国際プロジェクト、中国・韓国・ロシアにおけるタンチョウの生息状況把握のための情報交換等) >

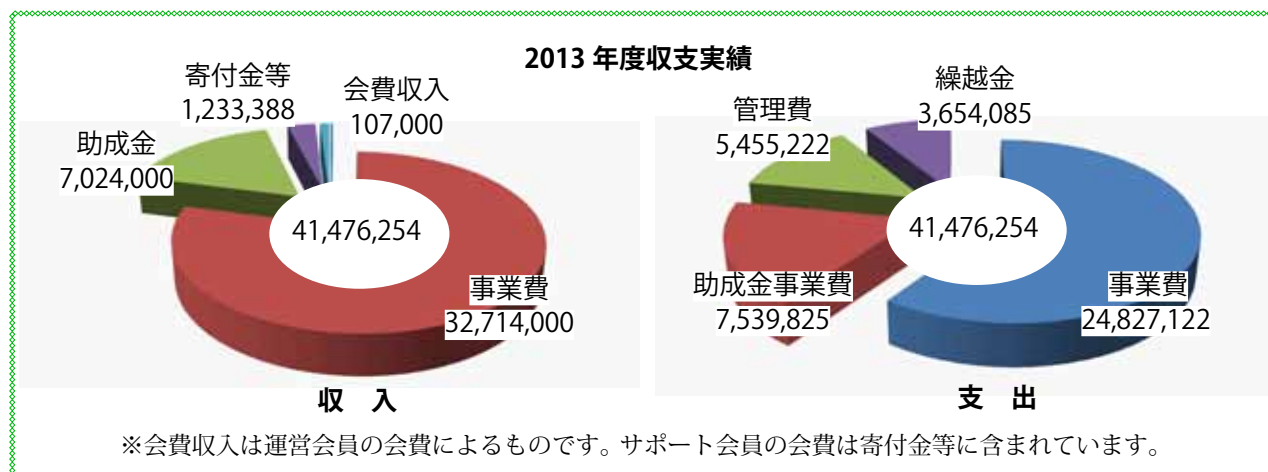
- ・8月6日から9日にかけて国際ワークショップ「タンチョウの保護と教育普及のためのプロジェクト」を釧路市観光国際交流センターをメイン会場として開催しました。ワークショップには中国でタンチョウが生息する自然保護区の所長のほか、中国の国際ネイチャースクール関係者、国際自然保護連合の種の保存委員会ツル専門家グループ代表、国際タンチョウネットワークのメンバー、環境省、国土交通省北海道開発局ほかの関係者など総勢33名が参加しました (本紙20号参照)。

- ・8月6日に釧路の当法人事務所で国際タンチョウネットワーク (IRCN) のカウンスル会議が開催され、当法人から百瀬理事長が出席しました (百瀬ゆりあはIRCNの代表として出席)。

- ・8月20日から30日にかけて、昨年度と同様に、中国ツムジ国立自然保護区、莫莫格国立自然保護区での学生達による教育普及活動 (国際ネイチャースクール) に百瀬邦和が参加しました (本紙20号参照)。

<世界のツル関係者との交流及び情報交換>

- ・9月9日から13日にかけて国際ツル財団創設理事のジョージ・アーチボルド (George Archibald) 博士と同財団理事候補のメアリー・デュネア (Mary Dunea) 氏が来釧され、釧路・根室地方のタンチョウ生息地一帯を案内しました。
- ・11月5日から7日に鹿児島県出水市の「出水市ツル博物館クレーンパークいずみ」の原口優子学芸員が来釧され、2014年1月に開催された出水市での国際ワークショップについての打ち合わせを行いました。
- ・2014年1月17日から18日に鹿児島県出水市で開かれた国際ツルシンポジウムとワークショップに参加しました (本紙21号参照)。(百瀬理事長、百瀬ゆりあ)



2014 年度活動計画

★調査研究活動

- ・タンチョウ繁殖状況調査：飛行機による調査と、繁殖期の地上調査により営巣状況を把握する。

- ・タンチョウ標識調査：ヒナへの標識と追跡調査を行う。
- ・タンチョウ総数調査：厳冬期に生息数を調べる。

- ・大陸と北海道とのタンチョウの遺伝子解析：韓国の越冬地での分析用の羽毛採取に協力する。
- ・シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全事業：環境研究総合推進費（環境省）による調査研究を行う。

★保護・保全活動

- ・傷病個体保護収容への協力等：環境省の傷病個体の保護収容等に協力する。
- ・タンチョウの事故防止対策：衝突事故防止のための調査、啓蒙活動を行う。
- ・タンチョウ生息地分散：生息地分散のための資料収集と、環境の整備を進める。
- ・中標津俵橋湿原プロジェクトの推進：同地での越冬地整備を行う。
- ・キナシベツ湿原保護のための活動の推進：環境調査、将来の保護計画策定等に参加する。
- ・タンチョウ監視・提言等：タンチョウ生息地での

各種事業に際して監視・提言を行う。

★教育普及活動

- ・タンチョウその他ツル類に関する講演・講習会を開催する。
- ・会報を発行するとともに、ホームページの更新を行う。
- ・出版物の発行等：標識鳥ファイルの更新と小冊子「湿地の神Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を配布する。

★国際協力活動

- ・国際タンチョウネットワークの活動（中国のタンチョウ生息地とその周辺国境地帯における普及啓発の為に国際プロジェクト、中国・韓国・ロシアにおけるタンチョウの生息状況把握）に協力・参加する。
- ・世界のツル関係者との交流及び情報交換を行う。

調 査 活 動 報 告

＜繁殖状況調査（飛行調査）＞

今年の飛行調査は4月23日から26日までの4日間行いました。風蓮湖に流入する河川沿いの浜中町北部と根室地方、及びオホーツク地方について今年は調査できませんでした。

調査は天候に恵まれたため連続した4日間で終了し、飛行時間は計25時間38分でした。飛行機には3名の調査員が2名ずつ交代で搭乗し、別の2名が地上でのサポートにあたりました。

結果についての詳細な確認作業がまだ終わっていませんが、今後、飛行調査記録の確認作業を進めると同時に、地上からの観察や聞き取りなどの調査を進めて、可能な範囲で繁殖つがいの記録を整理していく予定です。

＜標識調査＞

今年の調査は6月28日に開始し、7月26日まで行いました。昨年はヒナが小さめだったために開始を1週間遅らせたのですが、今年はヒナの成長が早く、初日に標識したヒナがもう5kg近くありました。例年十勝地方では繁殖を始める時期が早い傾

向があるようですが、今年はさらにヒナの成育も順調で、十勝地方だけで23羽ものヒナの情報がありました。

調査実施予定は主に土日と祝日を中心に12日間でしたが、その間に雨で中止にした日が1日あったため、最後の土曜日を一日追加しました。また、別に家族が農家の庭先に来ているのを狙って少人数での臨時の調査を2日行いました。

手弁当等、ボランティアで調査に参加して下さった方は昨年とほぼ同じ53名（のべ185名）にのぼります。飛行機や夜行バス、JRを使って遠隔地から参加された方々もいらっしやり、成果の多い年になりました。

今年標識したヒナの数28羽となりました。この中には2羽の兄弟（姉妹？）が5組含まれていますので、ヒナに標識できた家族は23ということになります。十勝地方ではこれまで最も多い9羽に標識できたこと、一日としては最高の5羽に標識できた日があったこと、標識時のヒナの体重としては最重量の6.45kgのヒナがいたことなどの嬉しい記録がありました。

一昨年の8月、昨年の5月に続き、5月8～15日にロシア・沿海州（ハンカ湖南東岸の湿原）でヘリコプターによる繁殖状況調査を実施しました。この調査は、委託事業である環境省の環境研究総合推進費「シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全—北海道とロシア極東との比較（タンチョウ・シマフクロウの生息環境解析に関する研究）」の一環で、今年が最後の年でした。昨年と同様、タンチョウ保護研究グループからは正富欣之と百瀬ゆりあの2名が参加し、ロシアの研究者らとともに協力して調査を行いました。昨年よりも調査時期を早めたことで、就巢しているタンチョウを多く発見することができました。今年の調査結果ですが、ヒナを含まないで133羽のタンチョウを確認しました。そのうち、つがいと思われるのは46組で、19つがいが巣に就いていて、16つがいがヒナを連れていました。昨年の結果については会報Tanco19号でもお知らせいたしましたが、調査し

た湿原の繁殖密度は釧路湿原と比較すると、約1/3～半分程度でした。今年も昨年と同程度の密度で繁殖していました。今後は、3年間の調査結果をまとめ、北海道のタンチョウとの更なる比較・検討を行いたいと思います。



営巣中のタンチョウ

第三回国際ネイチャー・スクール（INS） 百瀬ゆりあ

第三回国際ネイチャー・スクール（INS）が中国・遼寧省のパンジン市（7月17・18日）、ホアンジドン湿原（7月20・21日）、ファクー市（7月22日）の3箇所で開催されました。RCCはINSの前身であるネイチャー・キャンプの頃から係わってきており、今回も全日程に参加しました。今年は中国・韓国・ロシア・アメリカ、そして日本から参加があり、45人の大学生が10名の教授陣の指導のもとで600名を超える生徒の指導にあたりました。生徒の付き添いでみえた学校の先生やボランティア団体の方々、自然保護区や自治体職員の方々も80名以上にのぼり、地元のメディアも注目してテレビや新聞にも取り上げられました。手荷物重量制限ギリギリまで持って行ったRCC発行の小冊子「湿地の神Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と手ぬぐいとは大好評でした。ファクー市ではINSに合わせてファクー県主催・

国際ツル財団共催の第一回国際夏の夕べが催され、わたくし達も詩を読んだり、歌を歌ったりして、舞台にたちました。INSは来年から名称が変わることになりました。どのような名前になるのか、今から楽しみです。



ホアンジドン湿原にて

4月28日に環境省の担当者から相談の電話が入りました。中標津空港で排水池にタンチョウが巣を作っているのが困っているとのこと、どうしたら良いだろうかということです。「まさか!」と思いますが、とにかく現場を見てみないと何とも言えないので翌日一緒に現場に向いました。空港を管理する道職員の案内で現場に行ってみると、滑走路の北側にある四角い池の中央付近で確かにタンチョウが座っています。池は傾斜したコンクリートブロックに囲まれていて、中は浅く水が張っています。岸の一部に僅かにアシが見えますが、巣は丈の低い黒っぽく枯れたミズトクサの中なので、池の横の巡視路からは丸見えです。地図で図ると、この池は底の部分で60m×45m程でした。

4月22日の空港内の巡視の際に初めて巣を発見し、その時には卵は一つだったということです。理想的にはヒナが孵るのを待って親子揃って歩いて空港の外へ出て行ってもらうことを考えましたが、池の回りを含む空港内は全て草が芝のように綺麗に刈り込まれていて、巣のある池から300メートル程もある最短のフェンス出口まで、ヒナの身を隠しながら親とともに歩かせることは無理だろうとの判断です。空港の管理者は飛行機とタンチョウの衝突事故を心配して、1日も早くタンチョウに出て行ってほしいと言っています。そこで、巣から卵を回収して釧路市動物園に運ぶことにしました。動物園との調

整の結果、卵の発生が進んで胚が安定する抱卵日数が20日位になるまで待つて回収することにしました。

実際の回収は5月9日に行いました。当日も環境省の担当者に同行し、まだ親が抱卵を続けていた巣から卵2個を回収しました。本物の巣から生きた卵を回収するのも、抱卵していた親鳥が巣のそばで偽傷するのを見るのも私にとっては初めての経験です。卵を取り上げただけでは同じ巣に再産卵する可能性がありますし、時期としてはまだ別の場所で再営巣が期待できるので、巣を壊して現場を離れました。空港管理者には、ツル除けとして池にロープを張り巡らすようにアドバイスし、後日、実際にその様子も確認しました。

釧路市動物園に託した2つの卵の内の一つは無精卵でしたが、もう一つは無事に孵化し、ヒナは順調に育っているということです。

私たちの目には全く人工的に見える空港の四角い排水池でも、最近のタンチョウにとってはそれなりの営巣環境と判断したのでしょうか。あるいはこうした所を選ばなければならない程「自然の」営巣場所がなくなってきているのでしょうか。中標津空港のある根室地方北部には、もっと自然豊かな湿原が残っているようにも見えるのですが、タンチョウが選ぶ営巣地の環境の要因を見極めるのはまだまだ難しいものだと改めて考えさせられる一件でした。



空港内で営巣するタンチョウ

〈活動記録〉(2014 年 4 月～ 2014 年 7 月)

4 月 6 日 サントリー世界愛鳥基金の贈呈式に出
席(於:東京、百瀬邦和)
4 月 7 日 会報 Tancho21 号発送
4 月 11 日 運営会議(10 名出席)
4 月 23 日～ 26 日 繁殖期航空調査実施(十勝、
釧路)
5 月 2 日 運営会議(8 名出席)
5 月 7 日～ 16 日 ロシアでの繁殖環境調査(正富
欣之、百瀬ゆりあ)
5 月 9 日 環境省に協力し、中標津空港に営巢し
たタンチョウの卵を収容
5 月 21 日 来釧した大内晴氏(宮城県大内村「タ
ンチョウ復活を考える会」顧問)を案
内
5 月 24 日 2014 年度第一回理事会
5 月 25 日 2014 年度定例総会
6 月 1 日 俵橋湿原でデントコーンの種まき
6 月 6 日 北海道開発局池田河川事務所で十勝川
の河川工事におけるタンチョウ保護対
策に関する意見交換会に出席。運営会
議(9 名出席)
6 月 8 日 東邦大学理学部 OB 会(鶴風会)で講
演(於:東京、百瀬邦和)
6 月 14 日 信州野鳥の会の創立 30 周年記念会で
講演(於:松本市、百瀬邦和)
6 月 16 日 俵橋湿原でデントコーン畑への電牧柵
設置と種の播き直し
6 月 21 日 標識調査勉強会(於:釧路市民活動セ
ンター)
6 月 26 日 俵橋湿原のデントコーン畑で除草
6 月 28 日～ 7 月 26 日 タンチョウ標識調査実施

(14 日間)

7 月 14 日～ 25 日 中国のパンジン、ホアンジド
ン、ファクで行われた国際ネイチャー
スクールに参加(百瀬ゆりあ)

ソデグロヅル現る!

井上雅子

2014 年 3 月 29 日の午後、釧路市山花の
養鶏場からの帰り道に見慣れないヅルを見か
けた方が、ケイタイで撮った写真を動物園の
古賀さんに送ってくださってソデグロヅルと
判明。事務所にも連絡が入ったので、さっそ
く出かけたスタッフの写真から前年生まれの
若鳥とわかりました。

2、3 日後には、今度はナベヅルが 1 羽、
山花から阿寒町にかけて飛来。前号(Tancho
第 21 号)でお知らせした 11 月末から 3 月
10 日まで音別に滞在していた個体と同じか
もしれません。ソデグロヅル・タンチョウ・
ナベヅルの 3 羽揃い組の写真が撮れるか?
という期待もありましたが、残念ながら実現
はしませんでした。

ナベヅルは 2、3 日だけでのようです
が、ソデグロヅルは 4 月 15 日に確認され
たのが最後となりました。無事に故郷へ帰れた
でしょうか。

〈会員(7 月 31 日現在)〉

運営会員: 27 名、個人サポート会員: 134 名、団体会員: 13 団体

Red-crowned Crane Conservancy (RCC) newsletter

TANCHO

Twenty-second issue

August 2014

〈表紙写真〉

「釧路市山花地区に現れたソデグロヅル
とタンチョウの若鳥」

(2014 年 3 月 正富欣之氏 撮影)

特定非営利活動法人

タンチョウ保護研究グループ

〒085-0036

北海道釧路市若竹町 9 番 21 号

Tel/Fax 0154-22-1993

e-mail: tancho1213@pop6.marimo.or.jp

URL: <http://www6.marimo.or.jp/tancho1213>